



羽野晶紀

山口訓生
森 法明
鳥井和機
久保明彦
北村保尚

第10回 鴨川座談会



10回目を数える今年は、舞台や映画、テレビで活躍する女優の羽野晶紀さんをゲストに迎え、鴨川納涼床を支える人々とともに、納涼床や京都への想いを語っていただきました。京都生まれ、京都育ちの羽野さんですが、現在では東京暮らしの方が長くなりました。狂言師・和泉元彌さんの妻であり2児の母でもある羽野さんにとっての納涼床とは…。



心地よさ、が納涼床の原点

羽野 たまたま京都に来てて、どこかでご飯食べて帰ろうって言うて、きた村さんに連れてってもらったのがきっかけで納涼床へ。お料理もおいしかったですし、東京から来た事務所の方とかお仕事の方とかもたくさんいて、もうみんな大喜びでした。

北村 羽野さんみたいに京都人やのに東京の生活がずっと長いと、東京人感覚になってくる？

羽野 なってくると思います。それに私は高校まで京都でしたけど、大学から大阪へ出て、京都でぶらぶら遊ぶ時間はないまま、仕事で東京へ出てるから。

北村 大阪に行ってしまうと京都の遊びとはまた違うね。

羽野 そうなんです。なので学生のときではなく、大人になってから改めて京都を見て、帰ってきたら何でこんなに落ち着くんやろう、とか、離れていた分京都のよさがすごくよく分かります。

久保 京都も現代的にはなったんですが、この鴨川沿ってね、昔の京都の雰囲気はまだ維持できているんですよ。だから、よそから京都に戻ってきたら「落ち着く」というのは京都の人は

当然やと思います。社寺もそうですが、鴨川べりは、特に「癒やしの空間」っていうのかな、意識的に作ったわけではないのやけど、東山を眺めながら川のせせらぎの音を聴く。納涼床はそういう空間の中にあるんです。

羽野 学生のときとか、納涼床へ上がってみたいけど、なかなか自分では行かれへんでしょ。せやから下から見上げるばかりで、初めて上にのせてもろたときは、すごーいうれしかったもん。

北村 うれしいなあ。この頃ではなかなか納涼床に上がる、納涼床にのせてもらってという表現してくれる人、少ないですよ。納涼床坐れるか、とか納涼床の席あるか、とか。

羽野 学生の時とか、納涼床は大人のイメージだし、ステイタス感もあって畏れ多い感じでした。

北村 最近は和に限らずいろいろなタイプの納涼床があるし、学生さんが行ける納涼床もありますよ。今日の会場に貸してくれたは森さんとこの納涼床は、和洋折衷のしつらいでおしゃれやし、山口さんの鶴亭は昭和初期の建物でワインを楽しめ、鳥井さんのイカリヤ食堂はカジュアルなイタリアン。ところで森さんは何年目ですか。

森 5年なんです。最初はバーでしたが、だんだん一品を出すようになりました。最初は京都の方の利用が多かったんですが、今はどちらかというと東京とか、地元以外からのお客さんが多いです。別に東京の方を意識して作ったわけではないのですが。

北村 僕ととも、久保さんととも、山口さんととも、みんなそうですよね。京都

の感覚で作ったら東京の人に喜ばれた、ということ。

羽野 ところで、納涼床を開ける期間とか、統一されているんですか。

久保 そうです。詳しくは、北村さんから言ってもらおうかな。

北村 期間は5月1日からと、6月1日からと、6月15日からの3つの期間を申請できます。終わりは8月31日と9月30日の2種類だけ。昼床は5月と9月のみです。

羽野 年がら年中ではないんですね。それって冬は寒いから？

北村 それもありますが、もともとは祇園祭のころだけの風習だったのが、今日では5カ月間に延長されました。夏の風物詩として季節感を大切にしたらかもしれません。

久保 京都では、鴨川や貴船などが行政に許可申請を行って納涼床を出しています。最近では大阪の北浜界隈も川辺にテラスを設けて、昔の風情を楽しんでいるようですね。

羽野 ねえ、もうちょっと長い期間やれないの。秋、昼間だけカフェみたいに納涼床でお茶だけでも飲ませてくれたらうれしい。

久保 昔はね、8月31日で終わってたのが、「お月見できたらええなー」って。ほな、お月見やったら9月30日までやらしてもらおか、いうて延びたわけです。

羽野 はい、はい。

久保 そやから、今度、紅葉の時期まで延ばそか、とになったらそれはそれで可能性はあるんやが、そうなると収拾つかんようになるのではと。

北村 そんなですよ。5月1日から開けるようになって13年が経ちましたが、それ以前は6月1日からやったんです。5月の連休が大型連休に変わったのがきっかけでした。ビアガーデンも5月からやり出したところもあって、納涼床も5月からやりたい、ということで、当時の京都府知事のところに相談に行った



メゾン・ド・ヴァン鶴亭 主人 山口 訓生

ところ、知事のアドバイスもあって5月から納涼床を設けることになったんです。我々、京都人は歳時記を大切にしてきたので、それからすると5月は少し早いのですがー。

久保 京都人は季節感を大事にする心を誰もが持っています。

北村 それで、本床と区別するためにも、6月の本床開きを前に、5月25日に「鴨川納涼床清祓（きよばらい）式」という儀式を行うようになりました。納涼床の安全と商売繁盛を祈願して、八坂神社さんの祝詞で神事を行います。

久保 紅葉も桜もええから、もっと期間を広げようとするの「待っとくれやす」というのが京都です。

羽野 ご商売にどん欲な感じではないのですか。

久保 奥ゆかしいところが京都。呼び名も変わります。5月の床、6月からは本床。9月は後涼み（あとすずみ）。納涼床は江戸時代からあって、町衆が残暑を過ぎてから鴨川に涼みに行くことを「後涼み」いうたんです。そこからとりました。

鳥井 勉強になるなあ。川のそばやったら、どこでもやれるというんじゃないところが京都の納涼床の魅力やと思います。老舗さんが一杯いはいはる中で、僕たちとか、もう少し下の世代の子たちとかもやらせてもらっていますが、こういう歴史を知った上で、自分たちの財布で行けるようなお店も作っていかんとあかんなあと思います。

久保 値段の高い安いだけではないんですよ。若い人も多くなって、よく「敷居下げた」といわれますが、「下げてへん」のです。「ほな、スターバックスは？」といわれますが、スターバックスさんは準備に3年かけられました。最初「京都の伝統ある納涼床には不似合いやないか」と役員はこぞって反対だったそうなんです。そこで、一生懸命京都の文化を勉強されて、納涼床の歴史や伝統も勉強して3年かけて説得しはった。そやから、値段



イカリヤ食堂 オーナー 鳥井 和機



もち料理 きた村 主人 北村 保尚

だけではないのです。思いも誇りも納涼床なんやと。

森 僕、実は納涼床のある店は2軒目なんです。最初はちょっと問題があった、パラソルとか使っていました。それで注意されて、何があかんねん、いちいちうるさいな、って。

羽野 うるさいの？ あかんもんはあかん？

森 今になっていろいろ分かってくる、とんでもない納涼床を最初やっつ



京都鴨川倶楽部 シェフ 森 法明

たなぁというのはありますね。

北村 ほんまに？

森 納涼床には決まりごととか一杯あるんですが、守っていかんと、ほんまにただのテラスレストランが一杯、みたいな感じになってしまうんで。

北村 心地よさ、が納涼床の原点。

羽野 納涼床は玄関から入れてもらうでしょ。お店というよりもお家の中に入って行く感じがあるし、靴もしまつてもらう、奥へ奥へと案内されるところからもう他とは違う。お店の中の造りも昔ながらのしつらいを生かしながら、居心地のよさを演出してはる。細部まで全部好きなんです。それで、その奥の先には納涼床があって、背景は東山。別世界が広がります。

北村 世の中は思いっきり動いているのに、ここだけは100年止まっているようでしょう。タイムカプセルみたいなもんです。

羽野 せやし、普通にご飯食べさせてもらう、お勘定して帰ってくるのと違って、何かもうひとつ奥へ入れてもうた感じがするんですよ。「京都の懐」に入れてもらうような、その感覚がうれしいんです。

北村 心からくつろぐ、ということですね。

久保 くつろぎ過ぎはって困ることもあります。納涼床は夜11時消灯。そのあとは店内で。

鳥井 飲んではるお客様に「もうそろそろ」と言うのは難しいですね。それをいかにスマートに言うかが僕たちのサービ

スのひとつなんです。

森 納涼床でかなり飲んでいらっしゃる年配の方が「電気消してもええからもうちょっといさせて」とか。

山口 中でちょっとご用意して、「お楽しみのところ申し訳ありませんが」と言うて、シャンパン1杯差し上げたりして。うちのお客さんはよく分かってくださっていて、「なんでや」なんて方はいらっ

しゃいません。
久保 うちはおう早うに帰りはります、が、お年を召した男性の方が、歌わはったりしてね。納涼床は歌舞音曲が禁止。舞妓さんや芸妓さんも納涼床では舞えません。

北村 そやから僕、苦肉の策で納涼床に面しているお座敷を舞台にして…。

久保 納涼床から見るのはOK。納涼床の上では駄目。マイクもギターとか鳴り物も駄目。踊りも駄目。ただ、長刀鉾の囃子方のみ、(納涼床が始まる)5月1日だけ奏でることができます。これは祇園祭の神輿洗いを見に集まった人のために茶店や料理屋ができて、河原に納涼床机を置いたのが納涼床の発祥といわれているため、長刀鉾の“こんちきちん”だけは特別です。

久保 傍で聞くと大きな音ですけど(笑)。下を歩いたりして聞いてくるとええもんです。

北村 納涼床は決して堅苦しい席ではないのですが、くだけた席でもないんです。海に行くにも二通りあります。短パンにゴム草履で麦藁帽子被って行くのとね、サマージャケットとか着てリゾートに行くのと。どっちかというと納涼床は後者の方なんです、リゾートにもいろいろあってそんなに気張らんでもええし。この微妙なニュアンスを分かってほしい。

鳥井 おしゃれして食べよう、という人が多く、「その格好は何」という人は来はりません。

鳥井 羽野さんが家族で納涼床に来はるとしたら、どんな格好して来はります？

羽野 うちの主人(和泉元彌さん)はTPOがすごくうるさい(笑)。うるさい言うたらあかんね。厳しいんです。きっちりしてます。で、1日に何回も着替えるんです。それが大変(笑)。学校行くときは絶対にジャケット着て行かなあかんし、子どももそう。衿の付いたシャツを着せなさいって。暑いのに必ずジャケットを持って行かせたり、冬は絶対のれんくぐる前にコートを取げと。

鳥井 ドレスコードは完璧ですね。



女優 羽野 晶紀

羽野 あっ、浴衣はOKですか。

北村 OKですよ。

羽野 何が浴衣はね、お風呂上りに着るもんやと。お祭りのときはいいけど、基本はお稽古着やし、素足やし。

久保 ひとくちに浴衣と言ってもいろいろありますが(笑)、普通の浴衣やったら大丈夫ですよ。レギンスの方とか「素足で失礼します」、とか恐縮される方もおられますが。

北村 あるとき、店で仕事中に突然お客様に連れられて、作業衣、はだしに雪駄姿でお茶屋さんに上がるハメになったことがあります。突然とはいえさすがに「格好悪いな」と、上がるのをためらっていたら、玄関ですかさず「どうぞ」言うて足袋を出されました。

羽野 お客様に恥かかさへん、心配りやね。

鳥井 今はね、靴脱がんとそのまま上がるともありますよ。

羽野 ウッドデッキみたいなことになってるんですか。

鳥井 まあ、入口からそんな雰囲気にしてしまってるんですね。

羽野 靴脱いでしもた方がゆっくりできるのね。

久保 最近は椅子のところも増えました。うちも両方あります。

北村 掘りごたつ式もありますね。

森 うち今年からテーブル席にし

ました。外国の方とかお年を召した方からのご要望で。

山口 昔は水炊きの店やっただんですが、今はワインディング。ワインはまさかあぐらかいては飲みませんので、今まであったテーブルの足をつけ替えて高くして、その代わり、カウンターの高さに合うように納涼床を下げました。カウンターの中にいる私とお客様の視線にすぐ気を遣いました。

羽野 すごい考えではるんですね。

山口 お客様に心地よく楽しんでもらうには、まず自分が居心地よくないと。

羽野 今、納涼床は何軒あるんですか。

久保 95軒。お茶屋さんや置屋さんも入っています。

羽野 全部案内してもらいたい。

久保 いろいろありますからね。

羽野 待ち合わせは、オープンなお店でお茶して、気分をかえて、ほなご飯食べに行こか(笑)、言うて、最後はバーで涼み酒、鴨川沿いを上ル下ル。良いですね。和食もええけどご一緒する人によって、エスニックやイタリアン、フレンチ、中華とか選べるし。

北村 選択の幅があるのはええことやと思います。これからの納涼床というのは「和ですか洋ですか」ではなく、「京ですか」って言ってもらいたい。京都に来たからにはほんまの納涼床を満喫してほしいですね。



幾松 専務取締役 久保 明彦

